



高校との接続

第1節

大学進学への準備

- 1 大学受験対策を始めた時期・合格した時期
- 2 受験する大学・学部決定の際に重視した点
- 3 大学受験のときの入試方法

第2節

高校と大学の学びの接続

- 1 高校時代の学習時間
- 2 受験科目、高校までの知識・理解が不足している科目

第1節

大学進学への準備

1 大学受験対策を始めた時期・合格した時期

受験対策を「高校2年生」から開始した人の比率は、2008年から2012年にかけて5ポイント減少した一方で、「高校3年生」から開始した人の比率は5ポイント増加し、全体の6割を占める。合格時期はこの4年間で変化がないことから、全体的に、受験対策の開始時期が遅くなり、受験対策にあてる期間が短くなったといえる。

受験対策の開始時期が遅くなっている

大学生に受験対策を始めた時期をたずねたところ、「高校1年生」と回答した比率はほとんど変化がないが、「高校2年生」の比率が5ポイント減少（2008年：32.7% > 2012年：27.8%）した一方で、「高校3年生」の比率が5ポイント増加（2008年：55.6% < 2012年：60.7%）した。「高校3年生」から大学受験対策を開始する人は全体の6割を占める（図1-1-1）。他方、現在の大学に合格した時期については、この4年間でほとんど変化がみられない（図1-1-2）。

開始時期は高2前半で減少し高3秋で増加

学生はどのタイミングで受験対策を開始しているのか。経年での変化がみられた「高校2年生」「高校3年生」に絞って、2008年と2012年を比較した結果が図1-1-3である。これをみると、開始時期のピークは高3の始め（4～5月）であることに変化はなく、ピークを挟んで高2の後半（11月）から高3の夏（8月）にかけての比率に大きな変化はみられない。変化がみられるのは、差は小さいものの高2の前半（4～10月）の

比率が総じて減少している点と、高3の秋（9～10月）の比率がやや増加している点である。全体的に、「高校3年生」になってから受験対策を開始する比率が高まるなか、高3進級直後から始める層と、高3の秋から始める層に分化している様子が見えてくる。

入試方法によって時期が大きく異なる

入試方法別に受験対策の開始時期と大学合格時期をみた結果が図1-1-4・5である。まず、開始時期については、「高校2年生」のうちは水準も低く入試方法間の違いははっきりとしないが、「高校3年生」になるとばらつきがみられるようになる（図1-1-4）。このうち「指定校推薦」は高3の秋（9～10月）の比率が2割を超えて高くなっている。他方、大学合格時期をみると、入試方法別の違いがはっきりとわかる（図1-1-5）。「AO入試」「指定校推薦」「一般推薦入試」の合格時期のピークは、それぞれ10月、11月、12月と1ヶ月ずつ遅くなっており、「一般・センター入試」だけ年明けの3月となっている。入試方法によって受験対策にあてる期間が大きく異なることがわかる。



大学受験対策を始めたのはいつ頃ですか。
現在の大学・学部合格したのは、何月頃ですか。

図1-1-1 受験対策を始めた時期(経年比較)

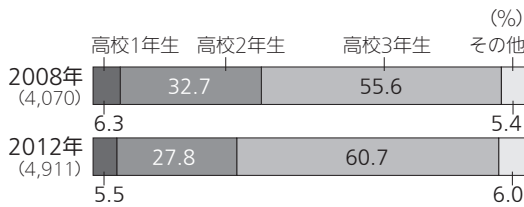


図1-1-2 現在の大学に合格した時期(経年比較)

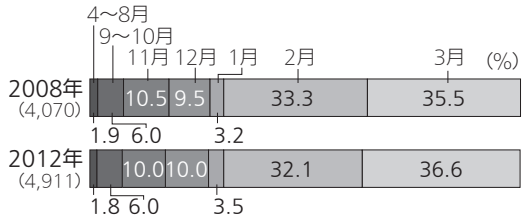
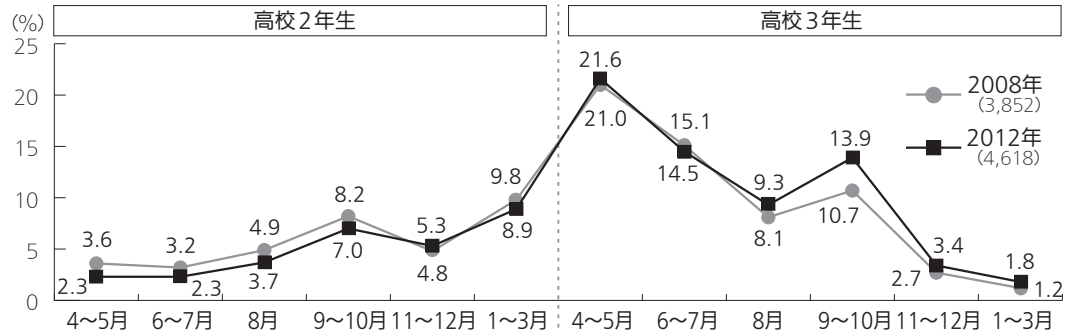
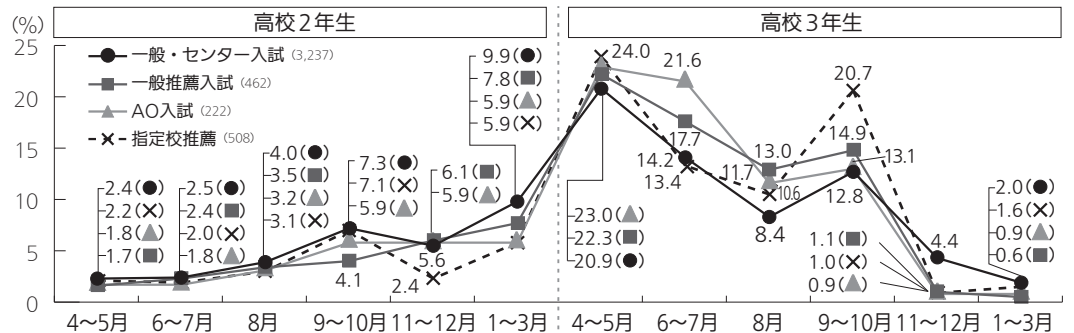


図1-1-3 受験対策を始めた時期(経年比較)



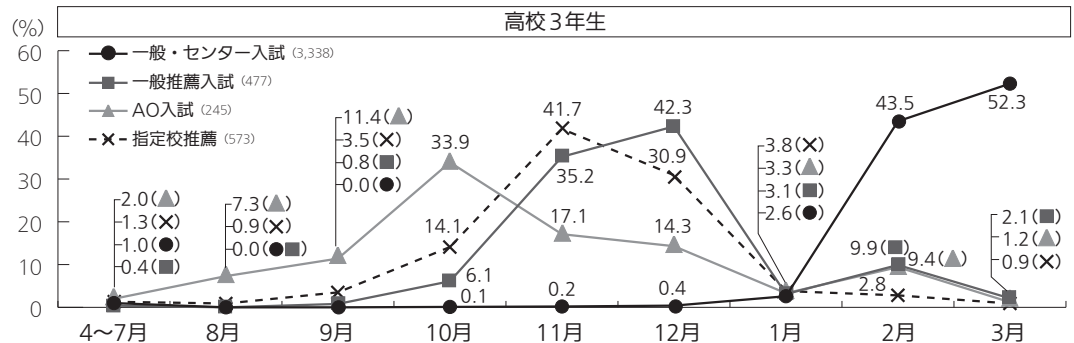
注1) 受験対策を始めた時期で「その他」と回答したサンプルを除く。()内はサンプル数。
注2) 経年での変化がみられない「高校1年生」の数値は省略した。

図1-1-4 受験対策を始めた時期(入試方法別)



注1) 受験対策を始めた時期を「その他」と回答したサンプルを除く。()内はサンプル数。
注2) 経年での変化がみられない「高校1年生」の数値は省略した。

図1-1-5 現在の大学に合格した時期(入試方法別)



2 受験する大学・学部決定の際に重視した点

6割台が「興味のある学問分野があること」、5割弱が「入試難易度が自分に合っていること」を重視しており、この4年間で大きな変化はみられない。「社会科学」では「入試難易度が自分に合っていること」、「医・薬・保健」「教育」では「取りたい資格や免許が取得できること」が「興味のある学問分野があること」と並んで高くなっている。

「興味のある学問分野があること」を最も重視

受験する大学・学部を決める際にどんな点を重視したかをたずねたところ、全体的に、2008年と2012年で大きな変化はみられなかった(図1-1-6)。そこで、以下では2012年の数値をみていくことにする。重視した点として最も比率が高かったのは「興味のある学問分野があること」で62.1%、続いて「入試難易度が自分に合っていること」が48.9%と高かった。第3位以降は3割台以下となることから、「興味のある学問分野があること」と「入試難易度が自分に合っていること」が、多くの学生にとって受験する大学・学部を決めるポイントとなっていることがわかる。

3人に1人が「自宅から通える」「入試方式が自分に合っている」を重視

学問分野や入試難易度に比べると比率は低くなるが、「自宅から通えること」は32.9%、「入試方式が自分に合っていること」は32.0%となっており、約3人に1人が重視するポイントとなっている。「世間的に大学名が知られていること」は26.1%で約4人に1人が重視している。上位5項目に着目すれば、上位4項目までが自分の興味・関心や学力、生活圏などに合っているかどうかという観点からの項目である。2008年と比較してこれらの水準や順位に大きな変化がみられないことか

ら、身の丈にあった大学・学部かどうかという点が実際に受験する大学・学部を決定する際に重視されているといえそうだ。

「社会科学」では「入試難易度が自分に合っていること」を最も重視

以上の傾向は、学生が所属する学部系統によっても大きく異なる(図1-1-7)。「興味のある学問分野があること」は多くの学部系統で6~7割台と最も割合が高い項目であるが、唯一「社会科学」だけは49.8%と5割を切っており、むしろ「入試難易度が自分に合っていること」のほうが52.0%と若干高くなっている。「興味のある学問分野があること」を重視する学生が少ないことが「社会科学」の特徴といえる。

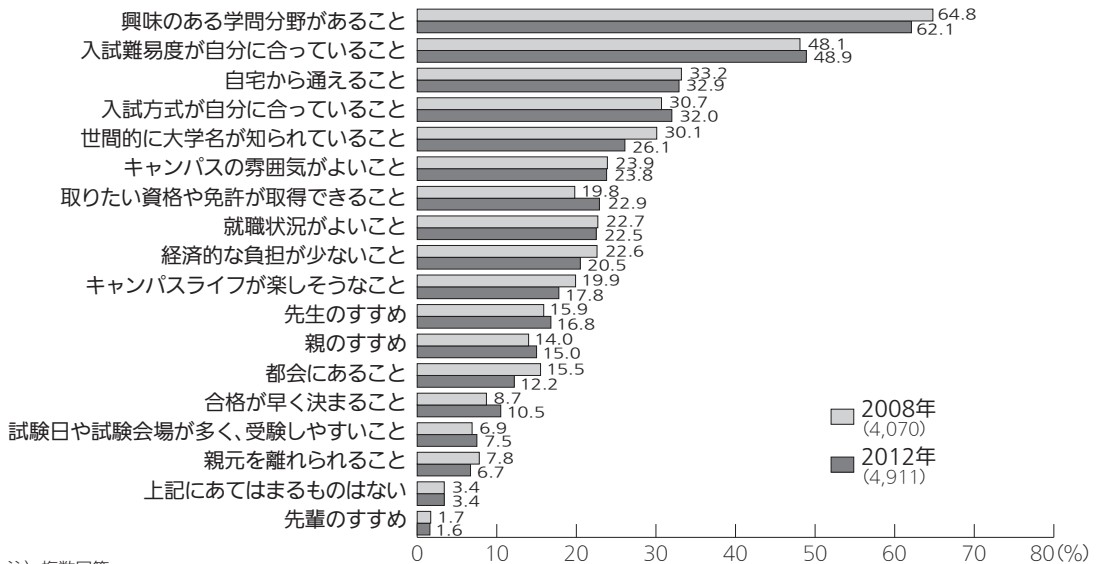
「医・薬・保健」「教育」は「取りたい資格や免許が取得できること」を重視

「興味のある学問分野があること」「入試難易度が自分に合っていること」を重視する傾向は「人文科学」「理工」「農水産」に共通しているが、「医・薬・保健」「教育」では「興味のある学問分野があること」に続いて重視されているのが、「取りたい資格や免許が取得できること」である(図1-1-7)。自分の興味はもちろん、資格・免許という具体的な目標をもって受験する大学・学部を決定している学生が多いといえそうだ。



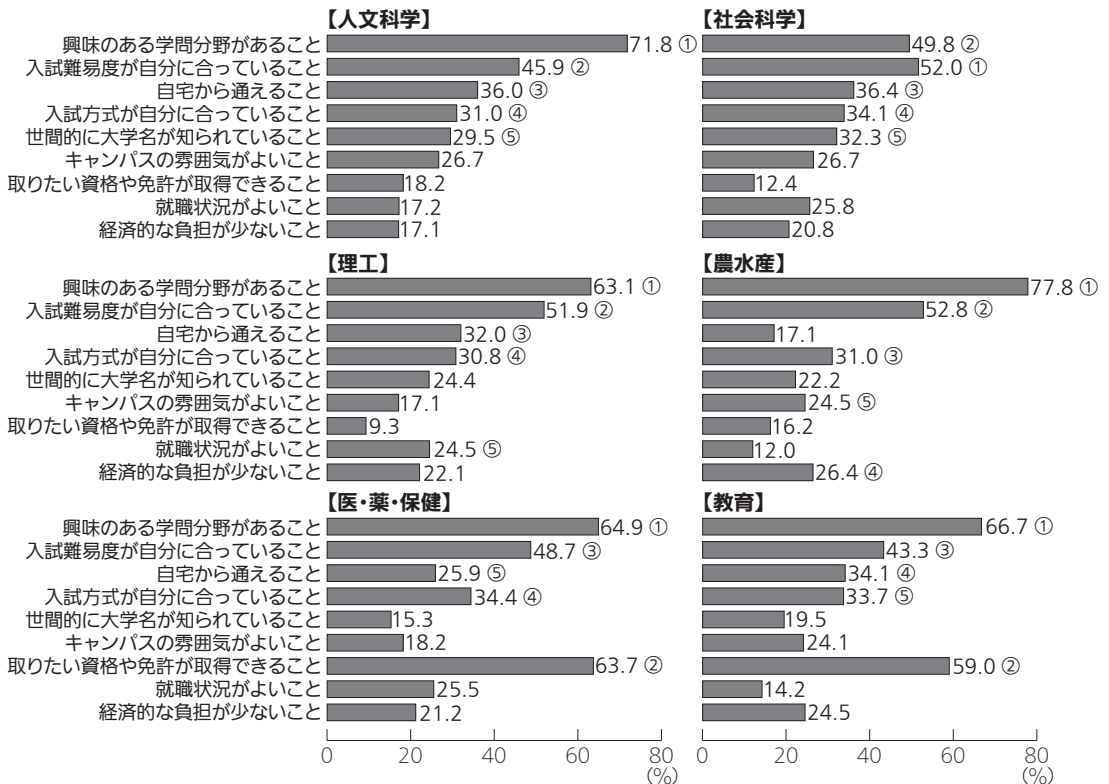
受験する大学・学部を決める際に重視した点について、あてはまるもの全てをお選びください。

図1-1-6 受験する大学・学部決定の際に重視した点（全体・経年比較）



注) 複数回答。

図1-1-7 受験する大学・学部決定の際に重視した点（学部系統別）



注1) 複数回答。 注2) 全18項目のうち全体の比率が20.0%以上の項目だけ示している。

注3) ①～⑤は比率が高い項目から順につけている。

3 大学受験のときの入試方法

大学生が受験で経験した入試方法（受験校全体）、現在の大学・学部の入試方法は、いずれも2008年から2012年にかけてほとんど変化がみられない。「一般・センター入試」による入学者は「国公立」で85.6%であるのに対して、「私立」では58.5%と低い。「私立」のなかでも、入試難易度の低い偏差値「50未満」では47.5%とさらに低下する。

..... 受験した入試方法に変化はみられない

大学生の受験した入試方法を、2008年と2012年で比較した結果が図1-1-8・9である。まず、受験で経験した入試方法についてみると、「一般入試」が約7割、「センター入試」が6割弱、「推薦入試」が3割弱と、この4年間でほとんど変化はみられない（図1-1-8）。また、現在の大学・学部の入試方法をみても、「一般入試」が6割弱、「推薦入試」が約2割、「センター入試」が約1割となっており、こちらもほとんど経年での変化はみられない（図1-1-9）。この4年間で、学生が受験する入試方法はほとんど変わっていないようだ。

..... 入試難易度の低い私立大学で「推薦・AO入試」の比率が高い

入試方法は、大学の設置者（国公立／私立）別、入試難易度（偏差値）別に大きな違いがある（図1-1-10）。「一般・センター入試」の比率に着目すれば、その比率が高いことは「推薦・AO入試」（「一般推薦入試」「AO入試」「指定校推薦」の合計。以下同）が低いことを、逆に「一般・センター入試」の比率が低いことは「推薦・AO入試」の比率が高いことを意味する。まず、大学の設置者別にみると、「国公立」では「一般・センター入試」の比率は85.6%であるのに対し、「私立」では58.5%まで下がる。さらに、「私立」

のなかで入試難易度（偏差値）別にみても、偏差値「60以上」の「一般・センター入試」の比率は69.1%と、「私立」の全体値（58.5%）よりも高くなっているが、偏差値「50未満」になると47.5%と半数を切る。これはつまり、「私立」のなかでも、入試難易度（偏差値）の低いグループで「一般・センター入試」の比率が低く、逆に「推薦・AO入試」の比率が高いことを示している。

..... 私立は「推薦・AO入試」のなかでも「指定校推薦」の比率が高い

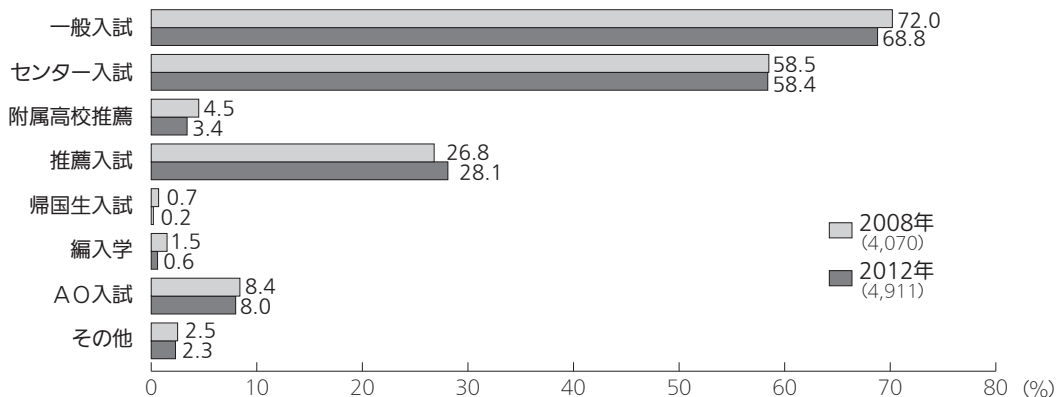
「推薦・AO入試」の比率だけでなく、その中身も「国公立」と「私立」で大きく異なっている。「国公立」では「一般推薦入試」がその多くを占め、「AO入試」「指定校推薦」の比率がかなり低い。一方、「私立」では相対的に「指定校推薦」の比率が高く、入試難易度の低い偏差値「50未満」のグループでは23.2%となっている。指定校推薦といえども、近年では、様々なレベルの大学に浸透しているようすがうかがえる。



- あなたは大学受験をしたとき、どのような入試方法を体験しましたか。あてはまるものすべてについてお選びください。
- また、現在の大学・学部にはどの入試方法で受験しましたか。あてはまるもの1つをお選びください。

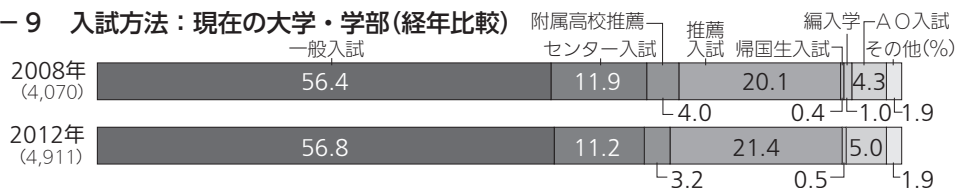
※現在の大学が国公立大学で、センター試験と一般入試（小論文、面接含む）をともに受験した場合は「一般入試」とお答えください。

図1-1-8 入試方法：受験校全体(経年比較)



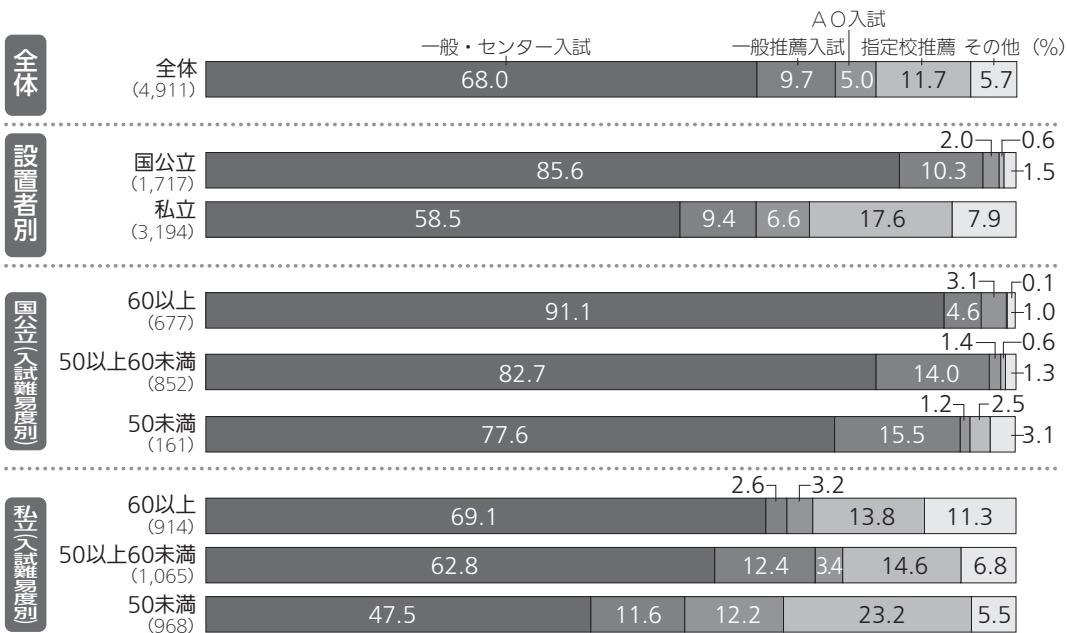
注1) 複数回答。注2) 2012年の「推薦入試」は「一般推薦入試」「指定校推薦」の合計(%)を示している。

図1-1-9 入試方法：現在の大学・学部(経年比較)



注) 2012年の「推薦入試」は「一般推薦入試」「指定校推薦」の合計(%)を示している。

図1-1-10 入試方法：現在の大学・学部(全体・設置者別・設置者×入試難易度(偏差値)別)



注) 「その他」には、入試方法が「附属高校推薦」「帰国生入試」「編入学」「その他」と回答した人を含む。